

《学校教育目標》

思いやりのところをもつ、自立したこどもの育成 ～素直な心・笑顔のあいさつ・感謝の心～

- <知>かしこく めあてをもって、自ら学ぶこども 【よく考え、よく伝えるこども】
- <徳>やさしく 明るく、心豊かなこども 【挨拶、笑顔のあるこども】
- <体>たくましく 心身ともに、たくましいこども 【最後までがんばるこども】

めざす学校像

【全てのこどもにとって居心地の良い学校】

- こどもを枠にはめず、違いを尊重
 - ・こどもまんなかの教育
- こどもが人を支え、人から支えられ、自分の身を守れるようする
 - ・人権教育、生徒指導、特別支援教育の充実
- 安全・安心に過ごせる居場所づくり
 - ・学びの機会確保と地域連携
 - ・学校施設・教育環境の維持・整備

本年度の経営にあたっての留意点

【「こどもまんなか」で質の高い教育環境の充実を図る】

- 失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくる。
 - ・挑戦と失敗を成長の糧とできる環境
- 誰一人取り残さない学びと、先端的な学びを進める。
 - ・ICT活用、リアルとデジタルの融合
- 学校の自律性と教職員のウェルビーイングを高める。
 - ・自律的で特色ある学校づくり
- 地域とのつながりの中で、こどもを見守り、支え育てる。
 - ・学校と地域の連携による学校運営

めざす教師像

【信頼と責任と協力で支えられた創造的で明るい教職員集団】

- 教師相互が課題を共通理解し、こどものために協働する教師
- 確かな学力定着のため、研鑽に努め、専門職としての力量を磨く教師
- 教育公務員としての自覚をもち、服務規律を遵守する規範意識の高い教師
- 児童・保護者・地域との連携を深め、信頼と期待に応える温かい教師

目標達成のための具体的方策

A 学級経営の充実

- 受容的・共感的な児童理解を経営の基盤に置き、教師と児童、児童と児童の良好な人間関係を築く。また、楽しく豊かな、しかも規律ある集団生活を目指し、互いによさを認め合い、励まし合う好ましい信頼関係づくりに努める。
- 学級懇談会、授業参観、家庭訪問をはじめ、連絡帳、電話連絡、学級通信等、日常的に家庭との連携を図るきめ細かな手だての工夫を通して、保護者の願いを受け止め、信頼関係を深めるとともに、学校と保護者の意思の疎通に努める。
- 特別な支援を要する児童に関する適切な指導や必要な支援を行うために、計画的な特別支援教育研修及び関係機関・保護者との連携に努める。

B 確かな学力と健やかな体の育成

- 「学びの質を高める授業」づくり5つのポイント
 - ①学び合いの「質を高める」基盤
 - ②めあての設定は「子どもと一緒に」
 - ③「問い」と「気付き」を促す発問
 - ④「考えを深める」話し合う活動と書く活動
 - ⑤まとめと振り返りは「子ども自らの言葉」で
- 授業時数の確保と学習内容の充実を図る。計画的な学習指導により適正な授業時数及び内容の確保をする。
- 家庭学習等の計画的・継続的な取組みの充実と共通理解を図る。
- 主題研究の推進に併せ、基礎的・基本的な学習内容の定着に向けて各学年の実態にあわせた指導の工夫を図る。
- 体育科学習指導の充実や1校1取組等を活用し、児童の健やかな体の育成を図る。
- ICT活用やTT指導等の指導方法を工夫改善することで、個に応じた課題解決を図っていくようにする。

C 心の教育の推進

- 道徳科の時間だけでなく、全教育活動を通じて、他人を思いやる心、自他の生命や人権を尊重する心など、互いを認め合い、共に生きていく態度の基盤となる豊かな心をはぐくむ教育の充実に努める。
- 児童の心の状態の把握に努め、教師と児童、児童と児童の円滑な人間関係をつくるよう学級活動においても話し合い活動の充実を図り、自治的・自発的な態度を育成する。
- 子どもの思いや言い分を受け止めながらも、いじめは絶対に許されないということを丁寧に指導する。併せて、生命尊重の観点から、特別の教科道徳の重点項目を設定し、指導の徹底を図る。
- 生活アンケートや心の健康観察及びスクールカウンセラーの専門的知識を活用し、児童の心の健全な育成を図る。